

①とおの物語の館

「とおの物語の館」は平成25年4月にリニューアルオープン。「物語蔵」ではザシキワラシや河童の話を映像で楽しく学ぶことができる。また天狗の絵馬や鳴り釜（複製）ザシキワラシについての宮沢賢治から佐々木喜善あての書簡も必見。

■鳴り釜（「遠野物語拾遺」第93話）

一日町の作平という家が栄え出した頃、急に土蔵の中で大釜が鳴り出し、だんだん強くなつて小1時間も鳴っていたという。



②あえりあ遠野前（旧遠野小学校）

■遠野小学校のザシキワラシ

（柳田國男『妖怪談義』より）

遠野の小学校がまだ遠野南部家の米倉を使用して居た頃、学校に子供の幽霊が出るという噂があった。佐々木喜善の友人も見たという人がある。夜9時頃になると、玄関から白い着物を着た6、7歳の童子が、戸のすきより入って来て、教室の方へ行き、机、椅子の間などをぐぐって楽しそうに遊んでいたという。



③多賀神社前

■多賀神社の狐

（「遠野物語拾遺」第193話より）

多賀神社の狐が、市のある日がなどに魚を買って帰る人をだまして、魚をとった。いつもだまされる綾織村のある男が、塩をつかんで通ると家で留守をしているはずの婆様が迎えに現れ、魚を寄こせと言った。そこで手の塩を口にへしこんだ。その次に男が通ると山の上で「塩へしり、塩へしり」と狐が言っていたという。



④外川酒店前

■外川仕候と狐

（「遠野物語拾遺」第194話より）

外川家の先祖に、仕候（しこう）と号する画をよく描く老人がいた。毎朝散歩をするのが好きで、ある日多賀神社の前を通ると大きな下駄が道に落ちていた。老人は、狐の仕業だと思って「そんな、めぎせえ下駄なんかはいらぬが、これが大きな筆だったらなあ」と言った。たちまち下駄は筆になつた。老人は「ああ立派な筆だ、こんな筆で画を描いたらなあ」と言って、さっさとそこを去つたという。また多賀神社の鳥居脇に松の古木があつたが、時々お姫様に化ける話があつた。



⑤遠野まちなかドキ・土器館

■村兵屋敷の御蔵ボッコ

（「遠野物語拾遺」第88話より）

遠野の町の「村兵（むらひょう）」といふ家には御蔵ボッコがいた。モミガラなどを散らしておくと、小さな児の足跡が残されてあつたという。



⑥新橋前

■抜首（「遠野物語拾遺」第229話より）

むかし一日市（現在の中央通り）のある家の娘は「抜首」だという評判であった。ある人が、夜分鍵町の橋の上まで来ると、若い女の首が落ちていて、コロコロと転がつた。近寄れば後にすり、近寄れば後にさすり、とうとうこの娘の家まで来ると、屋根の破れた窓から中に入ってしまった。



⑦柳玄寺橋

■幽靈金（「遠野物語拾遺」第137話より）

ある者が、ある夜に寺町の墓地の中を通つていると、つい先頃死んだ女があるいてきて、これを以ていけと言って汚い小袋を手渡した。家に帰つて開けてみると、銀貨銅貨を取り交ぜて多量の金（かね）が入つていた。その金はいくら使つても無くならずその者は急に裕福になったという噂である。この金は俗に「幽靈金」といって、一文でも袋の中に残しておくと、一夜のうちにまた元の通りに一杯になっているものだといわれている。



⑧寺町の墓地

■よみがえり

（「遠野物語拾遺」第137話より）

ある人が万福寺の墓地で墓掃除をしていたところ、日頃かわいがっていた裏町の家の子どもがよちよちとした足取りで遊びに来た。早く家に帰れといって子どもを帰し、墓からの帰り道にその子の家に寄ると、病気をしていたその子は一時息を引き取つたが、ようやく生き返ったところだと言つて、皆大騒ぎの最中であったという。

⑨善明寺（浄土宗）

■正牛坊の角

金光上人は善光寺の開基二代上人である。偽の坊主が罪業の深さにより、黒い大きな牛になったが、助けた農夫はこの牛の働きにより裕福になった。近郷の農夫がこれをうらやみ、通りかかった旅の僧を無理やり納屋に閉じ込めたが、実はこの僧は金光上人であった。農夫は悪心の報いで、角が生え体は牛になったが、金光上人が元の姿に戻してやつた。農夫は悔い改め、弟子となり、「正牛坊」と名乗つた。善明寺には正牛坊の取れた角の一本が伝わっている。

■天狗の牙

松崎の蛇柳明神の別当は、大水により妻子8人を失つた。別当は蛇柳明神が妻子を助けてくれなかつたことを恨み、天狗となつて乱暴の限りを尽くしていた。金光上人はこれを聞き、念仏の功德によって人間に戻してやつた。その一本の牙が「天狗の牙」として今も善明寺に伝えられている。

（善明寺の由来より）



主催：遠野文化研究センター 調査研究課

〒028-0515

岩手県遠野市東館町3番9号

TEL 0198-60-2800

FAX 0198-62-5758 URL <http://tonoculture.com/>